

# I 学科の概要

[生涯スポーツ学部]

**1** 生涯スポーツ学科

[教育文化学部]

**2** 教育学科

**3** 芸術学科

**4** 心理カウンセリング学科



# 学科の概要

## 1. 生涯スポーツ学科

生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科では、1) 運動やスポーツの楽しさを伝え、生徒の可能性を伸ばすことができる保健体育科教員、2) スポーツ実施者が抱える心身の問題に対して最善のコンディショニングを提案できるトレーナー、3) より高いパフォーマンス発揮を実現できるアスリートならびにコーチ、4) 科学的な知識や高度な専門性から競技スポーツや健康スポーツを支えるアナリスト、5) スポーツビジネス界を開拓するマネジメントスタッフ、6) 少子高齢社会を活性化できる健康づくり支援者、7) 「誰ひとり取り残さない」共生社会の実現に向け、問題を抱える人に寄り添える社会福祉士、8) 地域活性化を推進していくことのできる地方公務員やNPO職員など、8つの視点で人材を育成します。その上で、各専門分野に留まるのではなく、他の専門分野の学びを加えながらより応用力の高い人材を養成します。幅広い教養や豊かな人間性、実践的コミュニケーション力、また多様な人々との関係づくりと協働する力はすべてにおいて必要であるため、これらは学科の基礎となる人材養成の考え方となります。

### <生涯スポーツ学科3つのポリシー>

#### ○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

##### 【知識・理解】

- (1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
- (2) スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりなど、自ら選択した専門分野に関する専門知識を身に付けている。
- (3) 保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナー、社会福祉士などを目指す学生は、各養成課程で求められる知識を身に付けている。

##### 【思考・判断】

- (4) 自ら考え、設定した課題について、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの学問領域の研究方法で学んだ知識を活用し、適切な解決策を考えることができる。

##### 【関心・意欲・態度】

- (5) 生涯スポーツ社会実現に向けての課題に関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。
- (6) 多様な価値観をもつ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と協働して活動することができる。

##### 【技能・表現】

- (7) スポーツを通じて培われたコミュニケーション能力とスポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門的スキルと指導力を身に付けている。

## ○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

### 【教育内容】

生涯スポーツ社会で活躍できる豊かな人間性と専門性を兼ね備えた人材となるために、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する知識と実践力を段階的に身に付けることができるよう基礎的科目から専門・応用科目を体系的に学修する。

以下の4群に分けたカリキュラム構成とする。

- ① 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を育成する科目群(全学共通科目・就業力養成科目)
  - ② 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群(発展科目)
  - ③ 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群(学部基盤科目)
  - ④ 自ら選択した専門領域を深める専門的な科目群(学科専門科目)
- (1) 講義においては、基礎的・専門的な知識を学ぶ。演習においては自己の課題を発見し、他者との討議を積極的に行い、問題解決能力を高める。実習においては、地域社会における様々な体験活動を通し、実践的指導力やコミュニケーション能力を高める。
  - (2) 社会人基礎力を修得するための基礎学力の向上、幅広い教養を身に付ける。
  - (3) 1年次においては基礎学力の向上を目指しながら、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりなど、関心のある専門分野を中心に幅広い基礎的知識の修得を目指す。2年次には関心のある専門分野を進めながら、関連する専門分野の学びも行っていく。
  - (4) 3年次からゼミナール形式での「専門演習」を通して専門的な教育を行い、各自の適性・進路に合った、より専門的な知識や技術を修得する。併せて、より幅広い視野を得るために関連する専門分野の学びも深めていく。また、地域における実習・ボランティア活動に取り組むことにより、コミュニケーション能力や実践的指導力を高めることを目指す。
  - (5) 4年次では、4年間の学びの集大成として「卒業研究」を通して、専門性をより深く追究し、社会人基礎力の向上に努める。

### 【教育方法】

- (1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習や実技においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。(一部の科目は除く)
- (2) 1年次では、少人数制担任制度を用いて担任による個人面談を実施し、学修意欲と基礎学力を向上させる。
- (3) 2年次では、1年次の学修内容の振り返りを定期的に行い、学修の習熟度を評価し、担任のサポートによる学修意欲や基礎学力のフォローアップを行い、専門演習選択のための評価基準とする。
- (4) 3・4年次においては、少人数制の専門演習を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
- (5) 3・4年次はゼミ担当者を通じて教員による個人面談を実施し、学士力、社会人基礎力を養う上での学びの振り返りを促す。

### 【教育評価】

- (1) 講義科目、演習・実習科目においては、「筆記試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」

等によって、実技科目においては、更に「実技試験」の項目を追加して、学修の習熟度を多角的に評価する。

- (2) 各学年において学期ごとに単位の取得状況を確認し、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門的知識と高い実践力を身に付け、生涯スポーツ社会に貢献できる人間性豊かな人材としての準備状況の確認評価を行う。
- (3) 4年間の学修成果は単位の取得状況、専門演習、卒業研究や資格の取得状況等で総括的に評価を行う。

#### ○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
- (3) 身近な社会問題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。
- (4) スポーツ活動を通して積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。
- (5) スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの分野の勉学意欲が高く、その専門家として活躍することを希望している。

【ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)】	
知識・理解	(1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
	(2) スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりなど、自ら選択した専門分野に関する専門知識を身に付けている。
	(3) 保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナー、社会福祉士などを目指す学生は、各養成課程で求められる知識を身に付けている。
思考・判断	(4) 自ら考え、設定した課題について、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの学問領域の研究方法で学んだ知識を活用し、適切な解決策を考えることができる。
	(5) 生涯スポーツ社会実現に向けての課題に関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。
関心・意欲・態度	(6) 多様な価値観をもつ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と協働して活動することができる。
	(7) スポーツを通じて培われたコミュニケーション能力とスポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門的スキルと指導力を身に付けている。

科目名	ディプロマ・ポリシー						
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
全学共通科目							
1 基礎教育セミナーⅠ	○	○			○		
2 基礎教育セミナーⅡ	○	○			○		
3 日本語表現	○						○
4 数学入門	○			○			○
5 情報機器操作Ⅰ	○						○
6 情報機器操作Ⅱ	○						○
7 健康体育(実技を含む)	○	○			○		○
8 英語コミュニケーションⅠ	○						○
9 英語コミュニケーションⅡ	○						○
10 英語(中級)	○						
11 英語(上級)	○						
12 韓国語	○						
13 中国語	○						
14 ドイツ語	○						
15 フランス語	○						
16 スペイン語	○						
17 現代生活と政治・経済	○						○
18 現代生活と法律	○						○
19 現代生活と福祉	○			○			○
20 現代生活と芸術	○						○
21 現代生活と教育	○						○
22 現代生活と心と体	○	○					○
23 現代生活と物理	○						○
24 現代生活と地球	○						○
25 現代生活と環境科学	○						○
26 北海道の文化	○						○
27 日本国憲法	○						○
28 情報社会及び情報倫理	○						○
29 情報処理(中級)	○						○
30 情報処理(上級)	○						○
31 キャリアデザインⅠ	○			○			○
32 キャリアデザインⅡ	○			○			○
33 キャリアデザインⅢ	○			○			○
34 キャリア演習Ⅰ	○			○			○
35 キャリア演習Ⅱ	○			○			○
36 キャリア演習Ⅲ	○			○			○
37 キャリア演習Ⅳ	○			○			○
38 就業力特別講義Ⅰ	○			○			○
39 就業力特別講義Ⅱ	○			○			○
40 インターンシップ	○	○		○	○		○
発展科目							
41 発達心理学	○	○		○			
42 人間関係の心理学	○	○		○			
43 乳幼児心理学	○	○		○			
44 福祉心理学	○	○		○			
45 育児支援の心理学	○	○		○			
46 モチベーション心理学	○	○		○			
47 司法・犯罪心理学	○	○		○			
48 スクールカウンセリング	○	○		○			
49 青少年学習コーチング論	○	○		○			
50 リカレント教育論	○	○		○			
51 社会学	○	○		○			
52 生涯学習支援論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
53 生涯学習支援論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
54 社会教育経営論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○

科目名	ディプロマ・ポリシー						
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
55 社会教育経営論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
56 社会教育課題研究	○	○	○	○	○	○	○
57 社会教育実習	○	○	○	○	○	○	○
58 音楽概論	○						
59 音楽鑑賞法	○						
60 音楽史	○						
61 美術史	○						
62 ファッションデザイン概論	○						
63 インテリアデザイン	○						
64 ユニバーサルデザイン	○						○
学部基盤科目							
65 生涯スポーツ学	○	○		○	○	○	
66 生涯学習概論Ⅰ	○	○			○		
67 生涯学習概論Ⅱ	○	○			○		
68 健康学	○	○	○	○	○	○	○
69 基礎解剖学	○	○	○				○
70 生理学	○	○	○				○
71 基礎栄養学	○	○	○	○	○	○	○
72 スポーツ倫理学	○			○		○	
73 基礎統計学	○			○			
74 福祉入門	○	○	○		○	○	
75 介護予防論		○			○	○	○
76 認知症予防		○	○	○	○	○	○
77 高齢社会の街づくり	○	○					○
78 コミュニティワーク入門	○	○	○	○	○	○	
79 専門演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
80 専門演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
81 卒業研究Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
82 卒業研究Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
学科専門科目							
83 トレーニング演習		○	○	○			○
84 ジュニアスポーツ指導演習		○	○	○			○
85 ジュニアスポーツ指導実習		○	○	○			○
86 体力測定評価演習	○	○	○	○			○
87 運動処方演習		○	○	○	○		○
88 健康産業施設実習		○	○	○	○	○	○
89 健康トレーニング実践演習		○	○	○			○
90 介護予防実践演習		○		○			○
91 救急処置演習		○	○	○			○
92 コンディショニング演習		○	○	○			○
93 リコンディショニング演習		○	○	○			○
94 アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ		○	○	○			○
95 アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ		○	○	○			○
96 アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ		○	○	○			○
97 体づくり運動		○	○	○			○
98 器械運動	○	○	○	○			○
99 陸上競技		○	○	○			○
100 水泳・水中運動	○	○	○		○	○	
101 水泳・水中運動指導演習	○	○	○		○	○	
102 バスケットボール	○	○	○	○			○
103 サッカー		○	○	○			○
104 バレーボール	○	○	○				○
105 バドミントン	○	○					○
106 テニス	○	○	○		○		○
107 野球・ソフトボール		○	○				○
108 ダンス		○	○				○

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
109	武道	○	○	○				
110	冬季スポーツ	○	○	○	○	○	○	
111	エアロビック		○	○				○
112	エアロビック指導演習		○	○	○			○
113	アダプテッドスポーツ実技	○	○			○	○	○
114	レクリエーション実技		○				○	○
115	ニュースポーツ	○	○		○	○	○	○
116	野外教育実習	○	○				○	○
117	野外教育指導演習	○	○			○	○	○
118	雪上活動実習	○	○				○	○
119	競技スポーツコーチング演習 I	○	○		○	○	○	○
120	競技スポーツコーチング演習 II	○	○		○	○	○	○
121	競技スポーツコーチング演習 III	○	○		○	○	○	○
122	機能解剖学		○	○				
123	運動生理学		○	○				
124	生活習慣病概論	○	○	○	○			
125	衛生学及び公衆衛生学	○	○	○	○			
126	スポーツ医学基礎		○	○				
127	スポーツ整形外科学		○	○				
128	スポーツ内科学		○	○				
129	救急処置		○	○				○
130	トレーニング論		○	○	○			
131	体力測定評価	○	○	○	○	○	○	○
132	運動処方	○	○	○	○	○	○	○
133	健康運動専門職演習 I		○	○		○	○	
134	健康運動専門職演習 II		○	○		○	○	
135	体育原理		○	○	○	○	○	○
136	学校保健		○	○	○	○	○	○
137	保健体育科内容構成論		○	○	○	○	○	○
138	保健体育専門職演習	○	○	○	○	○	○	○
139	スポーツマネジメント	○	○	○	○	○	○	○
140	スポーツマーケティング	○	○		○	○	○	○
141	スポーツ社会学		○	○	○	○	○	○
142	スポーツ運動学	○	○	○	○	○	○	○
143	スポーツ史		○	○		○	○	○
144	スポーツ・バイオメカニクス		○	○				
145	スポーツ・バイオメカニクス演習		○	○	○		○	
146	スポーツ栄養学	○	○	○	○	○	○	○
147	スポーツ栄養学演習	○	○	○	○	○	○	○
148	スポーツ心理学		○	○				
149	スポーツ心理学演習		○	○			○	○
150	アダプテッドスポーツ論		○	○				
151	レジャー・レクリエーション論		○			○	○	
152	スポーツ解剖学		○	○				
153	アスレティックトレーナー概論		○	○		○	○	
154	スポーツ外傷障害予防 I		○	○	○			
155	スポーツ外傷障害予防 II		○	○	○			
156	スポーツ外傷障害の評価		○	○	○			
157	コンディショニング理論		○	○	○			○
158	リコンディショニング理論		○	○	○			○
159	アスレティックトレーニング専門職演習 I			○	○	○		
160	アスレティックトレーニング専門職演習 II			○	○	○		
161	競技スポーツ論		○		○	○	○	○
162	アスリート論		○		○	○		○
163	コーチング論		○		○	○		○
164	ゲーム分析		○		○		○	○
165	アスリートコーチング基礎演習 I		○		○	○		○
166	アスリートコーチング基礎演習 II		○		○	○		○
167	スポーツジャーナリズム論	○	○		○	○	○	○
168	スポーツビジネス論	○	○		○	○	○	○
169	地域スポーツ政策論	○	○	○	○	○	○	○
170	スポーツクラブマネジメント論	○	○		○	○	○	○
171	チームマネジメント論	○	○		○	○	○	○
172	スポーツDX論	○	○					
173	ジェンダースポーツ論	○	○	○	○	○	○	○
174	スポーツマネジメント演習	○	○		○	○	○	○
175	生活の中の介護福祉	○	○			○	○	○
176	認知症ケア	○	○				○	○
177	介護の基本 I	○	○					○

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
178	介護の基本 II	○	○					
179	生活支援技術	○	○		○			○
180	介護を必要とする人の理解	○	○		○			○
181	行政職専門演習 I	○	○		○	○	○	
182	行政職専門演習 II	○	○		○	○	○	
183	福祉基礎	○	○	○		○	○	○
184	医学概論	○	○	○		○		
185	心理学概論	○	○	○		○		
186	福祉ボランティア実践	○	○	○		○	○	○
187	ソーシャルワーク演習 I		○	○		○		○
188	ソーシャルワーク演習 II		○	○	○		○	
189	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	○	○	○		○		○
190	ソーシャルワークの基盤と専門職 II	○	○	○		○		○
191	ソーシャルワークの理論と方法 I	○	○	○		○		○
192	ソーシャルワークの理論と方法 II	○	○	○		○		○
193	ソーシャルワークの理論と方法 III	○	○	○		○		○
194	ソーシャルワークの理論と方法 IV	○	○	○		○		○
195	社会保障論 I	○	○	○		○		○
196	社会保障論 II	○	○	○		○		○
197	地域福祉と包括的支援体制 I	○	○	○		○		○
198	地域福祉と包括的支援体制 II	○	○	○		○		○
199	児童・家庭福祉	○	○	○				○
200	高齢者福祉	○	○	○	○	○	○	○
201	障害者福祉	○	○	○	○	○	○	○
202	公的扶助論	○	○	○		○		○
203	社会福祉調査の基礎	○	○	○		○		○
204	医療福祉論	○	○	○		○		○
205	権利擁護と成年後見制度	○	○	○		○		○
206	司法福祉論	○	○	○		○		○
207	社会学と社会システム	○	○	○		○		○
208	福祉サービスの組織と経営		○	○				○
209	社会福祉の原理と政策 I	○	○	○		○		○
210	社会福祉の原理と政策 II	○	○	○		○		○
211	ソーシャルワーク演習 III	○	○	○		○		○
212	ソーシャルワーク演習 IV	○	○	○		○		○
213	ソーシャルワーク演習 V	○	○	○		○		○
214	ソーシャルワーク実習指導 I		○	○		○		○
215	ソーシャルワーク実習指導 II	○	○	○		○		○
216	ソーシャルワーク実習指導 III	○	○	○		○		○
217	ソーシャルワーク実習 I	○	○	○		○		○
218	ソーシャルワーク実習 II	○	○	○		○		○
219	社会福祉専門職演習 I	○	○	○				
220	社会福祉専門職演習 II	○	○	○				
221	社会福祉専門職演習 III	○	○	○				
222	社会福祉専門職演習 IV	○	○	○				
223	社会福祉専門職演習 V	○	○	○				
224	特別支援教育専門職演習	○	○		○		○	○
225	特別支援教育総論	○	○		○		○	
226	知的障害者の心理・生理・病理	○	○				○	○
227	肢体不自由者の心理・生理・病理	○	○				○	○
228	病弱者の心理・生理・病理	○	○				○	○
229	知的障害教育 I	○	○		○		○	○
230	知的障害教育 II	○	○		○		○	○
231	肢体不自由教育 I	○	○		○		○	○
232	肢体不自由教育 II	○	○		○		○	○
233	病弱教育	○	○		○		○	○
234	視覚・聴覚障害者の心理・生理・病理	○	○				○	○
235	視覚・聴覚障害者の教育課程及び指導法	○	○				○	○
236	重複障害者の心理・生理・病理	○	○				○	○
237	重複障害者の教育課程及び指導法	○	○				○	○
238	発達障害者等の心理・生理・病理	○	○				○	○
239	発達障害者等の教育課程及び指導法	○	○				○	○
240	特別支援教育実習事前指導		○	○			○	○
241	特別支援教育実習事後指導		○	○			○	○
242	特別支援教育実習		○	○			○	○
外国人留学生科目								
243	日本語	○						
244	現代日本の文化	○						

## < 8つの分野 >

本学科は、スポーツ・健康・福祉を基軸に、社会的課題の解決に主体的に関わり、持続可能な地域社会の発展に寄与できる人材を育成します。8つの専門分野を学際的に横断（クロスオーバー）して学ぶ教育課程を編成し、理論と実践を結びつける学修を推進します。

### 1) 学校教育

生涯スポーツおよびスポーツ科学の知見を基盤に、運動やスポーツの楽しさと価値を的確に伝え、生徒の個性と可能性を伸ばす指導力を養います。保健体育科教員としての力量形成に加え、障害の状態や特性に応じた適切な指導・支援を行う特別支援学校教員に必要な専門性を身につけ、多様性を尊重する教育実践を担う人材を育成します。

### 2) アスレティックトレーニング

スポーツ現場で生じる心身の多様な問題を自ら発見し、スポーツ医科学に基づくデータを活用して、最適なコンディショニングの立案・指導ができる実践力を育みます。スポーツ外傷・障害の予防からスポーツ活動復帰の支援までを一貫して担い、選手・チームのパフォーマンス向上に貢献できる人材を育成します。

### 3) アスリートコーチング

競技力向上に必要なアスリートマインド、トレーニング理論、コーチング理論、技術・戦術論、データ分析を体系的に学び、高度な知識と技能を修得します。自他の競技力を高め、実践現場で成果を生み出せるアスリート、指導者、コーチ、アナリスト等として活躍できる人材を育成します。

### 4) スポーツサイエンス

科学的知見と高度な専門性を基盤に、エビデンスに基づく分析・評価・支援が行える能力を養います。体系的なスポーツ科学の知識と技術を修得し、科学的根拠に立脚した判断力と実践力を磨くことで、スポーツや健康づくりの現場で効果的な指導・サポートを提供し、社会でリーダーシップを発揮できるプロフェッショナルを育成します。

### 5) スポーツマネジメント

生涯スポーツの現場で機能するビジネスモデルを探究し、マネジメント理論と実践的運営能力を身につけます。組織運営、イベント運営、マーケティング、財務・ガバナンス等の知見を統合し、地域スポーツの価値創出と持続可能な運営を担う人材を育成します。

### 6) 健康ウェルネス

運動・スポーツを活用した健康増進と介護予防のモデルを学び、ライフステージや属性の多様性に応じた健康づくり、認知症予防、地域づくり、障害者支援・介護支援の理論と実践力を修得します。スポーツ・健康・福祉の力で、少子高齢社会の活性化に貢献できる人材を育成します。

## 7) 社会福祉

社会福祉学を基盤として、少子高齢化や過疎化等の生活課題に向き合うための専門知識・技術、ならびに価値・倫理を修得します。社会福祉士の養成に加え、公務員や民間企業等の多様な領域で福祉マインドを持って主体的に課題解決に取り組む人材を育成します。

## 8) 健康まちづくり

地域における社会教育の振興と地域活性化に寄与するため、社会教育主事任用資格および社会教育士の称号に対応した学修を通じて、地域活性化・地域づくりの知識と実践力を身につけます。「地域創生」の視点を備え、地方公務員、NPO、民間等で地域課題の解決を牽引できる人材を育成します。

## &lt;取得可能な免許・資格&gt;

生涯スポーツ学科において取得可能な資格は、以下のとおりです。

免許・資格名	資格区分	認定団体等	取得方法
中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
特別支援学校教諭一種免許状	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
学校運動部活動指導士	民間資格	公益財団法人日本スポーツクラブ協会	取得資格
公認スポーツ指導者共通科目Ⅲ	民間資格	公益財団法人日本スポーツ協会	取得資格
公認アスレティックトレーナー	民間資格	公益財団法人日本スポーツ協会	受験資格
公認ジュニアスポーツ指導員	民間資格	公益財団法人日本スポーツ協会	受験資格
公認アシスタントマネージャー	民間資格	公益財団法人日本スポーツ協会	受験資格
公認エアロビックコーチ1	民間資格	公益財団法人日本スポーツ協会	受験資格
JATI認定トレーニング指導者	民間資格	NPO日本トレーニング指導者協会	受験資格
健康運動指導士	民間資格	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	受験資格
初級パラスポーツ指導員	民間資格	公益財団法人日本パラスポーツ協会	取得資格
レクリエーション・インストラクター	民間資格	公益財団法人日本レクリエーション協会	取得資格
キャンプインストラクター	民間資格	公益社団法人日本キャンプ協会	取得資格
キャンプディレクター2級	民間資格	公益社団法人日本キャンプ協会	受験資格
社会福祉士国家試験受験資格	国家資格	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	受験資格
介護職員初任者研修	民間資格	北 翔 大 学	取得資格
社会教育主事任用資格・社会教育士	法定資格	北 翔 大 学	任用資格
社会福祉主事任用資格	法令資格	社 会 福 祉 法 ( 根 拠 法 )	任用資格
身体障害者福祉司任用資格	法令資格	身 体 障 害 者 福 祉 法 ( 根 拠 法 )	任用資格
知的障害者福祉司任用資格	法令資格	知 的 障 害 者 福 祉 法 ( 根 拠 法 )	任用資格
児童福祉司任用資格	法令資格	児 童 福 祉 法 ( 根 拠 法 )	任用資格
児童指導員任用資格	法令資格	児童福祉施設の設置及び運営に関する基準	任用資格

\*任用資格：社会福祉主事、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、児童福祉司は、福祉事務所、児童相談所等の都道府県、市町村行政における資格であるため、公務員となってその職に就いた場合に効力を発する資格です。社会教育主事は、都道府県教育委員会、市町村教育委員会においてその委員会以外の行政（環境・福祉・まちづくり等）やNPOにおいて、青少年の体験活動の支援やまちづくりの推進などの役割が期待されている職です。

\*児童指導員は、児童養護施設や障害児施設などの児童福祉施設に配置されている「児童指導員」として採用する際に、基準として厚生労働省が定めた資格です。

## 2. 教育学科

教育学科は、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身につけ、学校教育はもとより生涯学習社会での様々な場面で展開される文化・学習活動を支援・地域貢献することのできる人材を育成します。

少子化がすすむ中であって、子ども一人ひとりの能力を十分に発揮できるように、教育者・保育者には乳幼児・児童・生徒の特性に対応して学習活動等を支援していくための資質と能力が求められています。さらには、いじめや集団での小さな異変に気付き、適切に対処できる生徒指導や学級経営に関する実践的指導力はもちろん、人間関係が希薄になっている現代社会にあって、多様な学習活動を創り出していける高度な知識と技能だけでなく、発達障害や自閉症傾向など特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の増加などに対応できる専門的能力が求められています。教育学科では、特別支援教育に関わる科目をコース共通科目として位置付け、豊かな感性と柔軟な思考力をもち、幅広い教養と実践力を備えた専門職を養成します。

### <教育学科の3つのポリシー>

#### ○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

##### 【知識・理解】

- (1) 文化、歴史、教育、地理、生活、自然環境等について幅広い知識を身に付けている。
- (2) 現代社会の諸問題の存在について広く理解し教育者として社会に参画できる力を身に付けている。
- (3) 教育学の体系的知識を身に付け、教育上の諸問題を踏まえつつ、幼児・児童・生徒理解を深めることができる。

##### 【思考・判断】

- (4) 学修成果を状況に応じて実践的に活用することができる。
- (5) 現代社会が抱える課題に対し、学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。
- (6) 社会や教育上の諸問題を発見・理解し、解決のための方策を見いだすことができる。

##### 【関心・意欲・態度】

- (7) 研究と修養を継続的に行う意思を有し、自律的かつ主体的に取り組むことができる。
- (8) 地域社会の動向や教育事情をよく理解し、教育者として幼児・児童・生徒はもとより地域社会に貢献する高い志を持つことができる。
- (9) 高い倫理観と正義感を持つことができる。

##### 【技能・表現】

- (10) 読解、要約、まとめ、発表などの基本的なスタディ・スキルを身に付けている。
- (11) 教員等に求められるコミュニケーション力や表現力を身に付けている。また、今日的な情報処理に関するリテラシーを有し、情報の明確な受発信ができる。
- (12) 多様な価値観を理解して、適切な行動をとることができる。

## ○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

### 【教育内容】

- (1) 4コースあり、それぞれの目的にあった科目を設定している。大学での学び方を身に付ける「基礎教育セミナー」を必修科目として1年次に位置付けるとともに、4年間の学修の基礎になる科目を1・2年次に履修できるようにする。また、幅広い視野と知識を身に付けるために、教養科目や他学科の専門的な科目を、全学共通科目や発展科目に位置付け履修できるようにする。
- (2) 社会人としての必要な基礎力を育成することを目的とし、全学的にキャリア教育に関して「キャリアデザイン」を1年次から3年次にわたるまで必修科目として位置付ける。
- (3) 教員養成を主な目的とする学科であることから、教職免許を取得するための「教科（領域・養護）に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」を中心的な専門科目として位置付ける。概論や各論の履修後に、指導法の履修や実習、さらには専門分野の研究を行うことで、系統的な学びを展開する。また、小学校・幼稚園の教育実習・養護実習を3年次に、看護学臨床実習を2年次に、保育実習を2・3・4年次に、中高音楽の教育実習・特別支援学校の教育実習を4年次に設定し、より実践的な力を身に付けることができるようにする。
- (4) 各コースとも、4年次に卒業研究を設定し、大学における専門的な学びを総括する。

### 【教育方法】

- (1) 専門性を高めるために、理論の指導を確実にしたうえで、演習的な講義を展開している。
- (2) 個々の授業では、理論に基づく実践力を付けるために、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。
- (3) 各コースの特性を重んじて、文献・映像・音声・演奏・実物提示などの教材を吟味し、活用している。教育のICT化にも対応し、科目によってはタブレットや電子黒板などを使用する。
- (4) 各コースの特性に応じて、学外での学習活動を充実し、学会や研究会への参加・発表などを学生に促している。例えば、初等教育コース・幼児教育コースでは、教育・保育に関わる各種ボランティア活動への参加を促すことで、学生の幼児・児童理解を深め、指導技術の向上を図っている。音楽コースでは、関連学校や地域の催し物に参加し、社会貢献することを推奨し専門性の向上を図っている。養護教諭コースでは、3年次での看護実践演習（臨床実習を含む）に向け、初年度から理論学習や実習準備を行う。また、積極的に学会への参加を促し、専門性の向上を図っている。
- (5) 教科に関する指導法等の科目では、模擬授業等を積極的に取り入れ、実践力の向上を図っている。
- (6) 学生達の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くために前学期・後学期ごとにGT、ゼミごとに個人面談を行っている。

### 【教育評価】

- (1) 各科目で設定した評価方法に基づいて実施する。講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断して成績評価を行う。
- (2) ポータルサイトを活用し、学びの習熟度を学生自ら確認できるようにする。
- (3) 学習状況について教員と学生が個別に相談したり、学科に所属する教員間で情報を共有したり

して、客観的な評価と指導の充実を行う。

- (4) 卒業の判定にあたっては、専門演習や卒業研究から、4年間の学びの成果を総合的に評価する。

#### ○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 教育や保育に関する社会的な諸課題について、自分の持っている知識や情報により論理的に思考し、それを説明したり表現したりできる。
- (3) 「初等教育」、「幼児教育」、「養護教諭」、「音楽」の4コースから、主体的に所属先を選択・希望するために、専門性の高い職業に就く目的意識を有し、そのためにどのような学びを展開していきたいのか、具体的に考えることができる。
- (4) 高等学校等で課外活動やボランティアなど、多様な活動経験を有している。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)】	
知識・理解	(1) 文化、歴史、教育、地理、生活、自然環境等について幅広い知識を身に付けている。
	(2) 現代社会の諸問題の存在について広く理解し教育者として社会に参画できる力を身に付けている。
	(3) 教育学の体系的知識を身に付け、教育上の諸問題を踏まえつつ、幼児・児童・生徒理解を深めることができる。
思考・判断	(4) 学修成果を状況に応じて実践的に活用することができる。
	(5) 現代社会が抱える課題に対し、学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。
	(6) 社会や教育上の諸問題を発見・理解し、解決のための方策を見出すことができる。
関心・意欲・態度	(7) 研究と修養を継続的に行う意思を有し、自律的かつ主体的に取り組むことができる。
	(8) 地域社会の動向や教育事情をよく理解し、教育者として幼児・児童・生徒はもとより地域社会に貢献する高い志を持つことができる。
	(9) 高い倫理観と正義感を持つことができる。
技能・表現	(10) 読解、要約、まとめ、発表などの基本的なスタディ・スキルを身に付けている。
	(11) 教員等に求められるコミュニケーション力や表現力を身に付けている。また、今日的な情報処理に関するリテラシーを有し、情報の明確な受発信ができる。
	(12) 多様な価値観を理解して、適切な行動をとることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー											
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
全学共通科目												
1 基礎教育セミナーⅠ	○			○						○		○
2 基礎教育セミナーⅡ	○			○						○		○
3 日本語表現											○	○
4 数学入門		○	○	○	○							○
5 情報機器操作Ⅰ				○						○	○	○
6 情報機器操作Ⅱ	○		○							○	○	○
7 健康体育(実技を含む)			○	○								
8 英語コミュニケーションⅠ												○
9 英語コミュニケーションⅡ												○
10 英語(中級)	○			○						○		
11 英語(上級)	○			○						○		
12 韓国語	○						○					
13 中国語	○											○
14 ドイツ語	○											○
15 フランス語	○			○								○
16 スペイン語	○											
17 現代生活と政治・経済	○		○	○								○
18 現代生活と法律	○											
19 現代生活と福祉						○						
20 現代生活と芸術	○	○		○								○
21 現代生活と教育	○		○									○
22 現代生活と心と体	○					○						○
23 現代生活と物理	○					○						○
24 現代生活と地球	○	○			○	○			○	○		
25 現代生活と環境科学	○					○						○
26 北海道の文化	○			○				○				○
27 日本国憲法		○		○	○							○
28 情報社会及び情報倫理	○		○	○						○		○
29 情報処理(中級)		○		○						○		○
30 情報処理(上級)		○		○						○		○
31 キャリアデザインⅠ	○	○				○				○		○
32 キャリアデザインⅡ				○	○	○				○		○
33 キャリアデザインⅢ	○			○	○	○						○
34 キャリア演習Ⅰ					○					○	○	
35 キャリア演習Ⅱ					○					○	○	
36 キャリア演習Ⅲ					○					○	○	
37 キャリア演習Ⅳ	○				○							○
38 就業力特別講義Ⅰ	○				○							○
39 就業力特別講義Ⅱ					○							○
40 インターンシップ					○	○						○
発展科目												
41 スポーツ栄養学												○
42 スポーツマーケティング					○	○				○		
43 心理学概論	○		○	○	○		○					○
44 発達心理学			○				○					
45 人間関係の心理学											○	○
46 乳幼児心理学	○		○									
47 福祉心理学						○					○	○
48 育児支援の心理学				○	○	○			○			
49 モチベーション心理学												○
50 司法・犯罪心理学		○			○		○					○

科目名	ディプロマ・ポリシー											
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
51 スクールカウンセリング	○		○									
52 高齢社会の街づくり												○
53 高齢者福祉	○					○						○
54 生活の中の介護福祉					○	○						
55 社会学	○	○								○		
56 生涯学習支援論Ⅰ	○						○					○
57 生涯学習支援論Ⅱ	○						○					○
58 社会教育経営論Ⅰ	○					○		○	○			○
59 社会教育経営論Ⅱ	○					○		○	○			○
60 社会教育課題研究	○					○		○				
61 社会教育実習	○	○	○									
62 美術史							○					○
63 ファッションデザイン概論	○			○							○	
64 インテリアデザイン												○
65 ユニバーサルデザイン			○									○
学部共通科目												
66 教育文化学	○	○	○									○
67 芸術と心理学							○					
68 生涯学習概論Ⅰ	○						○					○
69 生涯学習概論Ⅱ	○	○	○				○	○	○			
70 メディアデザイン概論												○
71 心理学的支援法	○									○		○
72 青少年学習コーチング論	○									○		○
73 リカレント教育論	○							○				
コース共通科目												
74 学習コーチング学概論		○	○	○						○		○
75 専門演習Ⅰ	○		○								○	
76 専門演習Ⅱ	○		○									
77 卒業研究	○			○	○	○						
78 特別支援教育総論	○		○	○	○							
79 知的障害者の心理・生理・病理			○	○	○					○		○
80 肢体不自由者の心理・生理・病理			○	○	○					○		○
81 病弱者の心理・生理・病理			○	○	○					○		○
82 知的障害教育Ⅰ	○											○
83 知的障害教育Ⅱ						○						○
84 肢体不自由教育Ⅰ	○		○	○								○
85 肢体不自由教育Ⅱ	○		○	○								○
86 病弱教育	○		○	○								○
87 視覚・聴覚障害者の心理・生理・病理			○	○						○		○
88 重複障害者の心理・生理・病理			○	○						○		○
89 発達障害者等の心理・生理・病理			○	○						○		○
90 視覚・聴覚障害者の教育課程及び指導法			○	○						○		○
91 重複障害者の教育課程及び指導法			○	○						○		○
92 発達障害者等の教育課程及び指導法			○	○						○		○
93 特別支援教育実習事前指導	○			○								
94 特別支援教育実習事後指導	○			○						○		
95 特別支援教育実習	○		○	○						○	○	
96 特別支援学校論Ⅰ	○			○								○
97 特別支援学校論Ⅱ	○			○	○					○		○
98 特別支援実践論Ⅰ	○											○
99 特別支援実践論Ⅱ	○								○			○
100 特別支援実践論Ⅲ	○											○

科目名	ディプロマ・ポリシー											
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
初等教育コース専門科目												
101 国語科概論 (書写を含む)			○	○			○			○		
102 社会科概論	○		○	○	○		○				○	○
103 算数科概論			○	○	○							○
104 理科概論	○		○	○		○	○					○
105 生活科概論	○		○									○
106 音楽科概論	○					○					○	○
107 音楽実習 I	○		○								○	○
108 音楽実習 II	○			○							○	○
109 造形美術概論	○		○				○				○	○
110 家庭科概論	○		○		○							
111 体育科概論	○		○	○	○							○
112 英語科概論	○						○			○	○	○
113 国語科指導法	○											○
114 国語科指導・実践演習			○	○		○	○					○
115 社会科指導法	○		○	○	○		○	○		○	○	○
116 社会科指導・実践演習	○		○	○	○		○	○		○	○	○
117 算数科指導法	○		○	○	○		○	○		○	○	○
118 算数科指導・実践演習	○		○	○			○			○	○	○
119 理科指導法	○		○	○	○		○					○
120 理科指導・実践演習	○		○	○	○		○					○
121 生活科指導法	○		○		○							○
122 生活科指導・実践演習	○		○	○								○
123 音楽科指導法	○									○	○	○
124 音楽科指導・実践演習	○		○							○	○	○
125 図画工作科指導法	○		○	○			○				○	○
126 図画工作科指導・実践演習	○		○	○			○				○	○
127 家庭科指導法	○		○	○	○						○	
128 家庭科指導・実践演習	○		○	○	○		○					
129 体育科指導法				○								
130 体育科指導・実践演習			○	○								
131 英語科指導法			○	○			○			○	○	○
132 教育原理	○			○	○							
133 教職概論										○	○	
134 教育経営学	○				○			○				
135 教育心理学	○	○	○				○	○			○	
136 特別の教育的ニーズ論	○		○								○	
137 教育課程論	○				○			○			○	
138 道徳教育論	○	○	○							○		○
139 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○		○		○						○	○
140 教育方法論 (ICT活用の理論と方法を含む)	○	○	○		○							
141 生徒指導論 (進路指導を含む)	○		○				○					
142 教育相談論 (カウンセリングを含む)	○	○	○		○	○		○			○	○
143 教育実習事前指導 (幼・小)	○		○	○	○		○	○		○	○	
144 教育実習事前指導 (小・中)	○		○	○	○		○	○		○	○	
145 教育実習 (幼・小)	○		○	○	○		○	○		○	○	
146 教育実習 (小・中)	○		○	○	○		○	○		○	○	
147 教職実践演習 (幼・小)		○	○	○	○			○				○
148 小学校教育研究 I	○		○	○	○			○			○	
149 小学校教育研究 II	○		○	○	○			○			○	
150 小学校教育研究 III	○		○	○	○			○			○	
151 特別支援教育基礎演習	○											○
幼児教育コース専門科目												
152 幼児と健康	○		○								○	○
153 幼児と人間関係	○		○								○	○
154 幼児と環境	○		○								○	○
155 幼児と言葉	○		○								○	○
156 幼児と表現	○		○								○	○
157 ピアノ表現 I	○		○								○	○
158 ピアノ表現 II	○			○							○	○
159 保育内容総論	○		○				○				○	○
160 保育内容指導論			○	○			○					○
161 保育内容 (健康)	○		○									
162 保育内容 (人間関係)	○		○									
163 保育内容 (環境)	○		○									
164 保育内容 (言葉)	○		○								○	○
165 保育内容 (表現)	○		○								○	○
166 教育原理	○		○	○								
167 保育原理	○		○									○

科目名	ディプロマ・ポリシー											
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
168 教職概論												○
169 教育経営学	○				○				○			
170 教育心理学	○	○	○	○				○	○			○
171 特別の教育的ニーズ論	○		○									○
172 教育課程論	○				○			○				○
173 教育方法論 (ICT活用の理論と方法を含む)	○	○	○	○	○	○					○	○
174 こども理解			○	○								○
175 こどもの表現・言葉あそび	○		○	○							○	○
176 こどもの体育あそび			○	○								
177 教育相談論 (カウンセリングを含む)	○	○	○		○	○		○			○	○
178 教育実習事前指導 (幼・小)	○		○	○	○		○	○		○		○
179 教育実習 (幼・小)	○		○	○	○		○	○		○		○
180 教職実践演習 (幼・小)		○	○	○	○					○		○
181 こども家庭福祉	○	○	○		○			○		○		○
182 社会福祉	○	○	○		○							○
183 子育て支援			○	○	○							○
184 社会的養護 I	○											○
185 社会的養護 II	○		○	○	○		○					○
186 保育者論			○								○	○
187 保育の心理学			○									○
188 こども家庭支援の心理学			○	○							○	○
189 こどもの理解と援助			○									○
190 こどもの保健			○									○
191 こどもの健康と安全			○									○
192 こどもの食と栄養	○		○	○								○
193 こども家庭支援論	○	○	○									○
194 保育の計画と評価			○	○								○
195 乳児保育 I	○		○		○							○
196 乳児保育 II	○		○		○							○
197 障害児保育			○									○
198 保育実習 I a			○	○			○			○		○
199 保育実習 I b			○	○			○			○		○
200 保育実習 II			○	○	○		○			○		○
201 保育実習 III			○	○	○		○			○		○
202 保育実習指導 I a			○	○	○		○			○		○
203 保育実習指導 I b			○	○	○		○			○		○
204 保育実習指導 II			○	○	○		○			○		○
205 保育実習指導 III			○	○	○		○			○		○
206 保育実践演習			○	○	○	○						○
養護教諭コース専門科目												
207 衛生学			○		○	○						○
208 衛生学実験			○		○			○				○
209 公衆衛生学	○	○			○				○			○
210 学校保健	○		○	○								○
211 学校保健演習	○		○							○		○
212 学校保健管理論		○	○		○					○		○
213 学校保健組織活動論			○	○	○							○
214 養護実践学 I			○	○	○			○				○
215 養護実践学 II			○	○	○			○				○
216 養護活動実習 I		○		○						○		○
217 養護活動実習 II		○		○						○		○
218 養護実践学演習	○		○									○
219 健康相談活動の理論及び方法			○	○	○							○
220 健康相談活動演習			○		○					○		○
221 栄養学 (食品学を含む)	○		○						○			○
222 解剖生理学			○									○
223 薬理概論			○									○
224 微生物学 (免疫学を含む)	○		○						○			○
225 精神保健		○			○					○		○
226 看護学概論	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
227 看護学各論	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
228 学校看護学	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
229 看護技術演習 (救急処置を含む) I	○		○								○	○
230 看護技術演習 (救急処置を含む) II			○								○	○
231 看護技術演習 (救急処置を含む) III	○	○	○	○	○		○			○		○
232 救急処置活動論	○	○	○	○	○							○
233 看護実践演習 (臨床実習を含む)	○	○	○	○	○		○			○		○
234 養護教諭教育演習 I		○		○					○			
235 養護教諭教育演習 II			○						○			○

	科目名	ディプロマ・ポリシー											
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
236	保健室経営演習	○											○
237	保健教育演習	○			○	○	○						
238	健康診断演習	○			○							○	○
239	教育原理	○			○	○							
240	教職概論											○	○
241	教育経営学	○				○			○				
242	教育心理学	○	○	○	○			○	○				○
243	特別の教育的ニーズ論	○		○									○
244	教育課程論	○				○				○			○
245	道德教育論	○	○	○							○		○
246	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○		○		○							○
247	教育方法論 (ICT活用の理論と方法を含む)	○	○	○	○	○						○	○
248	生徒指導論	○	○					○					
249	教育相談論 (カウンセリングを含む)	○	○	○		○	○			○			○
250	養護実習事前指導				○			○	○	○		○	○
251	養護実習	○		○	○	○	○			○			○
252	教職実践演習 (養護教諭)		○		○	○						○	○
音楽コース専門科目													
253	ソルフェージュ	○			○								
254	楽典	○			○								
255	音楽概論	○									○	○	
256	音楽鑑賞法	○						○					○
257	音楽史	○											○
258	和声学	○			○		○						○
259	作曲法				○								○
260	指揮法												○
261	合唱 I					○					○		
262	合唱 II					○			○			○	
263	合奏 I												○
264	合奏 II												○
265	合奏 III												○
266	音楽企画実践演習					○							○
267	声楽基礎演習 I	○			○						○	○	
268	声楽基礎演習 II	○			○						○	○	
269	声楽表現演習 I	○			○						○	○	
270	声楽表現演習 II	○			○						○	○	
271	コンピュータミュージック I						○	○					○
272	コンピュータミュージック II												○
273	器楽基礎演習 I	○										○	○
274	器楽基礎演習 II	○										○	○
275	器楽表現演習 I	○										○	○
276	器楽表現演習 II	○										○	○
277	ピアノ基礎演習 I	○										○	○
278	ピアノ基礎演習 II	○										○	○
279	ピアノ表現演習 I	○										○	○
280	ピアノ表現演習 II	○										○	○
281	伴奏法 I	○											○
282	伴奏法 II	○											○
283	音楽フィールド演習												○
284	音楽科教育法 I	○											○
285	音楽科教育法 II	○								○			○
286	音楽科教育法 III	○		○									○
287	音楽科教育法 IV									○	○		
288	教育原理	○								○	○		
289	教職概論												○
290	教育経営学	○								○			
291	教育心理学	○	○	○	○					○	○		○
292	特別の教育的ニーズ論	○		○									○
293	教育課程論	○								○			○
294	道德教育論	○	○	○								○	○
295	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○		○		○							○
296	教育方法論 (ICT活用の理論と方法を含む)	○	○	○	○	○	○					○	○
297	生徒指導論 (進路指導を含む)	○		○						○			
298	教育相談論 (カウンセリングを含む)	○	○	○		○	○			○			○
299	教育実習事前指導 (中・高)	○		○	○	○				○	○		○
300	教育実習事前指導 (小・中)	○		○	○	○				○	○		○
301	教育実習 (中・高)				○	○						○	
302	教育実習 (高)					○	○					○	
303	教育実習 (小・中)	○		○	○	○				○	○		○
304	教職実践演習 (中・高)			○	○	○						○	○
305	音楽教育研究	○								○	○	○	○
外国人留学生科目													
306	日本語												
307	現代日本の文化												

## < 4つのコース >

### ①初等教育コース

初等教育における学習者の自発的な行動を促し、目標達成を支援するための知識や理論、教育技術を学び、未来を担う子どもの成長を支える人材を育成する。小学校、特別支援学校、幼稚園の各教諭一種免許状を同時に取得できる。4年間のカリキュラムは、観察・実験および結果分析を行うことのできる科学的思考力、文章ならびに音楽・造形・身体を用いた表現力等を培い、それらを子どもに指導する能力を育成するための科目構成となっている。また、「教育相談論（カウンセリングを含む）」「教職実践演習」など、幼稚園と小学校の円滑な接続や特別支援教育との関わりで求められる学校内外・関係機関との連携協力のためのコミュニケーション力や社会人力等の能力を養成する科目も配置している。特別支援教育に関する科目の多くは、教育学科の共通科目（コース共通科目）に配置し、今日的な課題である発達障害や重度・重複障害のある児童生徒、保護者への対応についても学ぶ。

### ②幼児教育コース

幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得をめざし、多様な指導技術を身につけた人材の育成を目的としている。基礎となる2つの免許状・資格にかかわる学びを深め、さらに特別支援学校教諭一種免許状の取得も可能である。幼児の自発的な活動としての「遊び」は重要な「学び」であり、5領域にわたる「保育内容」および「保育内容指導」を通して、「生きる力の基礎」が培われる。本コースではそれを達成するための意図的・教育的なプログラムを創意工夫できる保育者を育成する。「保育原理」「保育内容」などでは、思考力の芽ばえや豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園・保育所・認定こども園・家庭・地域の教育機能とその関連性に配慮できるようにする。また、「教育相談論（カウンセリングを含む）」などでは、発達障害児への対応や医療機関、福祉関係部署との連携協力などを適切に対処できる能力を具えた保育者を養成する。

### ③養護教諭コース

養護教諭の実践に欠かせない高度な専門知識と実践力を習得するためのカリキュラムが特色である。グループワークやゼミ活動、全国で活躍する養護教諭との多くの交流を通して、学ぶ喜びを味わいながら、将来に向けて確かな力を身につけることができる。

社会の急速な変化に伴って、子どもたちの心とからだの健康課題は複雑かつ多様化・深刻化している。養護教諭が児童・生徒の現代的な健康課題に適切に対応していくためには、常に新たな知識や技術などを習得していく必要がある。また、いじめなどにみられる心の健康課題においても、特にからだを通して心のサインを表出している子どもたちへの養護教諭の対応が期待される。そこで、養護教諭コースでは、教職生活全体を見通した実践力育成に努め、研究力を持ち学び続ける養護教諭の養成を目指す。

## ④音楽コース

音楽概論や和声学など、音楽の基礎知識を身につけるとともに、演奏法についてはプロフェッショナルによる指導で深く学び、高度な技術と豊かな表現力を習得する。そして、それらを的確に伝える力をもった音楽教諭や演奏家、音楽活動の指導者・支援者を目指す。音楽コースでは、従来から音楽教員養成校で行われてきた基本的な教育の上に、音楽を通じて心の豊かさを生徒たちに教えられる能力の育成を目指し、新しい時代の流れに対応した音楽指導者の教育に努める。音楽の基本要素を含む理論を学び、さらにピアノ、声楽、管打楽器などのマンツーマンの実技指導で個々の演奏表現の能力を充実させる。音楽活動を学内外で実践できる授業を大切に、地域での活動を通じて、音楽をいかに中学、高校での教育活動で大切にしていけるべきかを体感できる環境づくりに力を入れている。

## &lt;取得可能な免許・資格&gt;

教育学科において取得可能な資格は、以下のとおりです。

免許・資格名	資格区分	認定団体等	取得方法
小学校教諭一種免許状	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
幼稚園教諭一種免許状	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
特別支援学校教諭一種免許状	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
養護教諭一種免許状	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
中学校教諭一種免許状（音楽）	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
高等学校教諭一種免許状（音楽）	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
保育士資格	国家資格	都 道 府 県 知 事	取得資格
社会教育主事任用資格・社会教育士	法定資格	北 翔 大 学	任用資格
児童指導員任用資格	法令資格	児童福祉施設の設置及び運営に関する基準	任用資格
社会福祉主事任用資格	法令資格	社 会 福 祉 法 （ 根 拠 法 ）	任用資格
准学校心理士	認定資格	一般社団法人 学校心理士認定運営機構	認定資格
幼児体育指導者検定2級	認定資格	公益財団法人 日本幼少年体育協会	認定資格

### 3. 芸術学科

芸術学科では、美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の各芸術領域を学びます。基礎教養教育と幅広い芸術文化の基礎理解を通して多様な考え方や価値観を知り、多角的に物事をとらえることによって発想の豊かさを身につけ独創性を醸成します。また、表現力と創作力についての専門的スキルを獲得し、実社会と関わって実践する力を修得し、自立するための基礎力を身につけます。このように芸術分野を通して創造性を培い、社会で自立するための基礎力と実践力を有する人材を養成し、理論と実践に関わる研究を深め、共同制作や発表活動を活発に行うことによって、あらゆる職種において芸術性を活かし、自らの人生を切り拓き、社会貢献できる人材を輩出します。また、美術教育並びに生涯学習の観点から、中学校、高等学校、美術館、博物館、劇場、福祉施設、NPO等でアートの専門知識とコミュニケーション能力を活かし、芸術文化の持つ豊かな力や技法を教えらるるような、様々な世代の人々にアートの普及活動ができる教育者や支援者の養成も目指します。

#### ＜芸術学科の3つのポリシー＞

##### ○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

##### 【知識・理解】

- (1) 豊かな人間性と芸術分野における幅広い知識を身に付けている。
- (2) 選択した分野の専門的知識を身に付けている。

##### 【技能・表現】

- (3) 芸術の多様な技能と豊かな表現能力を身に付けている。
- (4) 豊かな表現能力・活用能力を身に付けている。

##### 【思考・判断】

- (5) 芸術の幅広い視点に基づく問題分析力・考察力・対応力を身に付けている。
- (6) 問題解決に関する提案力を身に付けている。

##### 【関心・意欲・態度】

- (7) 芸術活動を通じた自己探求力を身に付けている。
- (8) 社会における自分の役割を自覚する力を身に付けている。
- (9) 社会における文化振興に貢献し、社会人としての使命感や責任感を持って行動する力を身に付けている。

##### ○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

##### 【教育内容】

- (1) 芸術教育を通して創造性を培うために、美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の5分野に関する専門科目を配置する。

- (2) 芸術理解、表現技術、情報技術、アート教育・文化、平面表現、立体表現、空間・身体表現、発想・企画・プレゼンテーション、総合・統合の芸術の各領域で構成されており、理論と実践に係る研究を深め、技能を向上させるための科目を設定する。
- (3) 創作活動や発表を活発に行うことによって、専門分野をさらに深化させ、社会人としての教養を修得することができる編成とする。
- (4) 各学生が自ら選択する分野で、専門的学習が行えるよう分野別の教育課程を整備し、さらに、複数の分野の専門科目を履修できる枠組みを設定する。

#### 【教育方法】

- (1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習科目において、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 3年次に専門演習、4年次に卒業研究など、少人数制のゼミを必修化し、教員が各学生の身近な存在となり、目の行き届いた教育を実施する。

#### 【教育評価】

- (1) 提出課題、作品などを評価対象として、教員による評価を毎学期実施する。
- (2) 4年間の総括的な学修成果については、外部での発表会などを通して、担当教員による卒業研究の評価によってこれを行う。

#### ○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術の学びを通して成長したいという意志を有している。
- (3) 自分のことだけでなく、広く社会を見渡し、自分の創造力や構想力によって他者に寄与したいという意志を有している。
- (4) 様々な事を思案するだけに留まらず、芸術分野における創作表現の実践や、既成概念にとらわれない新たな挑戦を行いたいという意志を有している。
- (5) 創作制作を通じ、他者と互いに学び合いたいという意志を有している。

## 芸術学科 ディプロマ・ポリシーとの関連を示したカリキュラムマップ

令和8(2026)年度入学生

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)】	
知識・理解	(1) 豊かな人間性と芸術分野における幅広い知識を身に付けている。
	(2) 選択した分野の専門的知識を身に付けている。
技能・表現	(3) 芸術の多様な技能と豊かな表現能力を身に付けている。
	(4) 豊かな表現能力・活用能力を身に付けている。
思考・判断	(5) 芸術の幅広い視点に基づく問題分析力・考察力・対応力を身に付けている。
	(6) 問題解決に関する提案力を身に付けている。
関心・意欲・態度	(7) 芸術活動を通じた自己探求力を身に付けている。
	(8) 社会における自分の役割を自覚する力を身に付けている。
	(9) 社会における文化振興に貢献し、社会人としての使命感や責任感を持って行動する力を身に付けている。

	科目名	ディプロマ・ポリシー										科目名	ディプロマ・ポリシー									
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	
全学共通科目																						
1	基礎教育セミナーⅠ	○			○		○	○	○			56	生涯学習支援論Ⅰ	○			○				○	○
2	基礎教育セミナーⅡ	○			○		○	○	○			57	生涯学習支援論Ⅱ	○			○				○	○
3	日本語表現	○			○		○					58	社会教育経営論Ⅰ	○			○				○	○
4	数学入門	○			○							59	社会教育経営論Ⅱ	○			○				○	○
5	情報機器操作Ⅰ	○			○		○					60	社会教育課題研究	○			○			○	○	○
6	情報機器操作Ⅱ	○			○		○					61	社会教育実習	○			○			○	○	○
7	健康体育(実技を含む)	○			○		○					62	音楽概論	○			○					
8	英語コミュニケーションⅠ	○			○		○					63	音楽鑑賞法	○			○					
9	英語コミュニケーションⅡ	○			○		○					64	音楽史	○			○					○
10	英語(中級)	○			○		○					学部共通科目										
11	英語(上級)	○			○		○					65	教育文化学	○			○				○	○
12	韓国語	○			○		○					66	芸術と心理学	○			○				○	
13	中国語	○			○		○					67	生涯学習概論Ⅰ	○			○				○	○
14	ドイツ語	○			○		○					68	生涯学習概論Ⅱ	○			○				○	○
15	フランス語	○			○		○					69	メディアデザイン概論	○			○				○	
16	スペイン語	○			○		○					70	心理学的支援法	○			○				○	
17	現代生活と政治・経済	○			○					○		71	青少年学習コーチング論	○			○				○	
18	現代生活と法律	○			○					○		72	リカレント教育論	○			○				○	○
19	現代生活と福祉	○			○					○		学科専門科目										
20	現代生活と芸術	○			○					○		73	美術概論	○	○			○				
21	現代生活と教育	○			○					○		74	美術史	○	○			○				
22	現代生活と心と体	○			○					○		75	美学	○	○			○				
23	現代生活と物理	○			○					○		76	色彩計画	○	○	○	○	○				
24	現代生活と地球	○			○					○		77	ファッションビジネス	○			○				○	○
25	現代生活と環境科学	○			○					○		78	ファッションデザイン概論	○	○						○	○
26	北海道の文化	○			○					○		79	舞台芸術概論	○	○			○				
27	日本国憲法	○			○					○		80	舞台芸術研修	○	○			○				
28	情報社会及び情報倫理	○			○					○		81	ドローイングⅠ	○	○	○						
29	情報処理(中級)	○			○					○		82	空間デザイン基礎	○	○	○						
30	情報処理(上級)	○			○					○		83	服飾基礎実習		○	○						
31	キャリアデザインⅠ	○			○					○		84	クリエイティブシンキング	○			○			○		
32	キャリアデザインⅡ	○			○					○		85	インテリアデザイン	○	○	○						
33	キャリアデザインⅢ	○			○					○		86	基礎デザイン	○	○	○						
34	キャリア演習Ⅰ	○			○					○		87	ユニバーサルデザイン	○	○		○					○
35	キャリア演習Ⅱ	○			○					○		88	テクニカルスケッチ		○	○	○					
36	キャリア演習Ⅲ	○			○					○		89	建築計画	○	○							
37	キャリア演習Ⅳ	○			○					○		90	ドレーピング		○	○	○					
38	就業力特別講義Ⅰ	○			○					○		91	服飾技能実習Ⅰ	○	○							
39	就業力特別講義Ⅱ	○			○					○		92	服飾技能実習Ⅱ	○	○							
40	インターンシップ	○			○					○		93	演劇入門Ⅰ		○	○	○				○	
発展科目																						
41	スポーツ栄養学	○			○					○		94	演劇入門Ⅱ		○	○	○				○	
42	スポーツマーケティング	○			○					○		95	デジタルイメージⅠ		○	○	○					
43	心理学概論	○			○					○		96	デジタルデザインⅠ		○	○	○					
44	発達心理学	○			○					○		97	ウェブデザインⅠ		○	○	○					
45	人間関係の心理学	○			○					○		98	CAD設計		○	○	○					
46	乳幼児心理学	○			○					○		99	プログラミングによるCG		○	○	○					
47	福祉心理学	○			○					○		100	アパレルCAD		○	○	○					
48	育児支援の心理学	○			○					○		101	舞台映像制作Ⅰ		○	○	○					
49	モチベーション心理学	○			○					○		102	舞台映像制作Ⅱ		○	○	○					
50	司法・犯罪心理学	○			○					○		103	博物館概論	○	○			○			○	○
51	スクールカウンセリング	○			○					○		104	博物館経営論	○	○			○			○	○
52	高齢社会の街づくり	○			○					○		105	博物館資料論	○	○			○			○	○
53	高齢者福祉	○			○					○		106	博物館資料保存論	○	○			○			○	○
54	生活の中の介護福祉	○			○					○		107	博物館展示論	○	○			○			○	○
55	社会学	○			○					○		108	博物館情報・メディア論	○	○			○			○	○
												109	博物館教育論	○	○			○			○	○
												110	博物館実習	○	○			○			○	○

	科目名	ディプロマ・ポリシー								
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
111	デザイン概論	○	○	○	○					
112	美術表現演習	○	○	○	○					
113	映像論	○	○	○	○					
114	写真	○	○	○	○					
115	ファッションコーディネート	○	○	○	○	○	○			
116	ファッション文化論	○	○							
117	マンガ表現研究	○	○	○		○		○		
118	舞台芸術各論Ⅰ	○	○	○		○				
119	舞台芸術各論Ⅱ	○	○	○		○				
120	服飾造形論	○	○							
121	衣服素材	○	○			○			○	
122	生活材料学	○	○							
123	都市と空間の法規	○	○	○						
124	住宅と空間の生産	○	○	○						
125	ドローイングⅡ		○	○	○	○		○		
126	絵画Ⅰ		○	○	○	○				
127	絵画Ⅱ		○	○	○	○				
128	絵画Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○		
129	版画		○	○	○	○		○		
130	グラフィックデザインⅠ		○	○	○	○				
131	グラフィックデザインⅡ		○	○	○	○	○			
132	グラフィックデザインⅢ		○	○	○	○	○	○		
133	デジタルイメージⅡ		○	○	○	○				
134	デジタルイメージⅢ		○	○	○	○		○		
135	デジタルデザインⅡ		○	○		○				
136	デジタルデザインⅢ		○	○		○		○		
137	ウェブデザインⅡ		○	○		○				
138	デジタルビデオ編集		○	○	○					
139	インテリア設計Ⅰ		○	○	○					
140	ファッション画		○	○	○	○				
141	テキスタイルデザイン		○	○	○					
142	パターンメイキング		○	○						
143	アパレルデザイン		○	○	○	○		○	○	
144	染色		○	○	○					
145	彫刻Ⅰ		○	○				○		
146	彫刻Ⅱ	○	○	○	○	○				
147	彫刻Ⅲ	○	○	○	○	○		○		
148	陶芸Ⅰ		○	○				○		
149	陶芸Ⅱ		○	○				○		
150	金属工芸		○	○						
151	木材工芸		○	○	○			○		
152	3Dモーショングラフィックス		○	○	○			○		
153	3DグラフィックスⅠ		○	○	○			○		
154	3DグラフィックスⅡ		○	○	○			○		
155	建築空間のしくみ	○	○							
156	建築一般構造演習		○	○						
157	空間模型演習		○	○						
158	服飾造形実習		○	○	○					
159	創作テキスタイル		○	○	○	○	○			
160	マテリアル		○	○	○	○	○			

	科目名	ディプロマ・ポリシー								
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
161	服飾創作		○	○	○	○	○			
162	キッズファッション		○	○						
163	ファッションクラフト		○	○	○	○				
164	舞台衣装Ⅰ		○	○	○	○		○	○	
165	舞台衣装Ⅱ		○	○	○	○		○	○	
166	サウンドデザイン		○	○	○					
167	リビングデザイン論	○	○							
168	住宅設計演習		○	○	○					
169	構造のかたちと力	○	○							
170	構造力学演習		○	○						
171	空間設備		○	○						
172	生活環境		○	○						
173	トータルビューティ	○	○	○						
174	俳優トレーニング		○	○	○				○	
175	朗読・ナレーション		○	○	○					
176	俳優論(演習を含む)		○	○	○				○	
177	ダンス&トレーニングⅠ		○	○	○				○	
178	ダンス&トレーニングⅡ		○	○	○				○	
179	ダンス&トレーニングⅢ		○	○	○				○	
180	ダンス&トレーニングⅣ		○	○	○				○	
181	アクティング&オーディオドラマⅠ		○	○	○	○		○		
182	アクティング&オーディオドラマⅡ		○	○	○	○	○	○		
183	アクティング&オーディオドラマⅢ		○	○	○	○	○	○		
184	ステージ・アーツ入門Ⅰ		○	○	○	○		○		
185	ステージ・アーツ入門Ⅱ		○	○	○	○		○		
186	ステージ・アーツ入門Ⅲ		○	○	○	○		○		
187	ステージ・アーツ発展Ⅰ		○	○	○	○	○	○		
188	ステージ・アーツ発展Ⅱ		○	○	○	○	○	○		
189	ステージ・アーツ発展Ⅲ		○	○	○	○	○	○		
190	ステージ・アーツ研究Ⅰ		○	○	○	○	○	○		
191	ステージ・アーツ研究Ⅱ		○	○	○	○	○	○		
192	ステージ・アーツ研究Ⅲ		○	○	○	○	○	○		
193	3次元造形演習		○	○	○					
194	デジタルコンテンツ制作		○	○	○	○				
195	ブランディングデザイン		○	○	○	○	○	○	○	
196	プレゼンテーションデザイン		○	○	○					
197	ディスプレイデザイン		○	○	○	○				
198	インテリア設計Ⅱ		○	○	○			○		
199	店舗デザイン		○	○	○					
200	演劇と映画		○	○				○	○	
201	ステージ総合実習		○	○	○	○	○	○	○	
202	ポートフォリオ制作		○	○	○	○	○	○	○	
203	総合演習Ⅰ		○	○	○	○	○	○	○	
204	総合演習Ⅱ		○	○	○	○	○	○	○	
205	専門演習Ⅰ		○	○	○	○	○	○	○	○
206	専門演習Ⅱ		○	○	○	○	○	○	○	○
207	卒業研究		○	○	○	○	○	○	○	○
外国人留学生科目										
208	日本語		○			○				
209	現代日本の文化		○			○				

### < 3層構造の教育課程と5つの分野 >

本学科のカリキュラムポリシーを具体的に展開するために、専門科目は、『基本科目』と『専門科目』そして『応用実践科目』の3層構造になっています。最も基本的に身につけるべき内容を教授することを目的とした科目を1層目の『基本科目』とし、「芸術理解」「表現技術」「情報技術」の3領域を設定しました。そして、学科の中核となる科目を2層目の『専門科目』とし、表現方法を芸術の持つ根本的な諸要素領域分けに従って「アート教育・文化」「平面表現」「立体表現」「空間・身体表現」「発想・企画・プレゼンテーション」の5領域を設定しました。さらに、自身の専門性を深化させ実際に活用できる能力を身につけるために3層目を『応用実践科目』とし、「総合・統合」の領域を設定しました。

この3層構造の教育課程の内容を具体的な学習到達イメージにつなげ、具現化するために、これまでの本学科の伝統をより強く引き継ぐかたちで、美術分野・メディアデザイン分野・インテリア建築分野・服飾美術分野・舞台芸術分野の5つの芸術分野を中心とした教育課程としています。その目的と特色は以下のようになります。

#### ●美術分野

確かな専門知識と高度な描写力、造形力を修得し、独創性あふれる作品を制作し、多彩なアートシーンで活躍できる画家、彫刻家、グラフィックデザイナーなどの養成を目指す。

#### ●メディアデザイン分野

デザインの専門性を深めながら、多様なメディア技術を使いこなし新しい表現ができるウェブデザイナー、CGアーティスト、映像ディレクター、グラフィックデザイナーなどの養成を目指す。

#### ●インテリア建築分野

表現力と構想力と実践力を身につけ、住宅や商業施設など様々な空間の設計デザインやディスプレイデザインができる建築士、インテリアコーディネーター、空間デザイナーなどの養成を目指す。

#### ●服飾美術分野

デザイン・造形・パターンなどの服づくりから、ビジネス・文化・流行・流通・環境まで広範囲な分野を含む総合的な服飾表現技能を身につけ、企業や地域と連携し実社会で広く活躍できる人材の養成を目指す。

#### ●舞台芸術分野

演劇をコアとした照明・音響・装置美術・衣装・メイク・演技等、総合的な実践力を身につけたバックステージスタッフ、演劇者などの養成を目指す。

なお、芸術学科では、20の研究領域を設けています（「絵画」、「彫刻」、「グラフィックデザイン」、「イノベーションデザイン」、「3DCG」、「建築デザイン」、「インテリアデザイン」、「ファッションデザイン」、「テキスタイルファッション」、「役者・声優」、「バックステージ」、「動画・映画」、「舞台衣

裳]、「ユニバーサルデザイン」、「手芸・クラフト」、「空間デザイン」、「デジタルアート」、「写真」、「ゲームデザイン」、「マンガ・アニメーション」)。2年次の「総合演習」、3年次の「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「卒業研究」を通して学びを深めます。

### <取得可能な免許・資格>

芸術学科において取得可能な資格は、以下のとおりです。

免許・資格名	資格区分	認定団体等	取得方法
中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）	国家資格	教 育 委 員 会	取得資格
社会教育主事任用資格・社会教育士	法定資格	北 翔 大 学	任用資格
学 芸 員 任 用 資 格	国家資格	文 部 科 学 省	任用資格
一 級 ・ 二 級 ・ 木 造 建 築 士	国家資格	国（一級）・都道府県（二級・木造）	受験資格
イ ン テ リ ア プ ラ ン ナ ー	国家資格	（財）建築技術教育普及センター	受験資格

## 4. 心理カウンセリング学科

現代社会では、乳幼児期から高齢期に至るあらゆる年齢層で、深い人間理解や心のケア、そして生活支援の知識と対人援助の実践力をもつ人材が広く求められています。心のケアをめぐる課題は、心の健康に不安を抱える人々や心に疾患をもつ人々の増加などに加え、北海道の地域特性からくる様々な問題がかかわっています。こうした時代の要請に応じて、心理学（心の理解とケア）と精神保健福祉学（生活支援）の専門的知識と技能をあわせもち、地域住民が心豊かに暮らすことに貢献する人材を養成することをめざして本学科が設置されました。

現代社会において心の問題を抱える人への支援にあたっては、近年の対人援助の各専門領域で重視されている、生物－心理－社会モデル（bio-psycho-social model）を念頭にこれらの各側面から多面的・統合的に人間を理解し援助する能力が必要とされます。そのためには、心理学の知識に基づく客観的な人間理解の能力と、ソーシャルサポートにかかわる包括的な知識とをあわせもち、心のスペシャリストであると同時に対人援助のジェネラリストであることが求められるのです。本学科では、高度のカウンセリング能力を涵養し、対人援助職のみならず、保健医療、教育、福祉、司法、民間企業、ひいてはあらゆる社会生活の場面で、実践的に応用することができます。

### ＜心理カウンセリング学科の3つのポリシー＞

#### ○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

##### 【知識・理解】

- (1) 豊かな人間性と社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- (2) 対人援助に関する基礎的知識を身に付けている。

##### 【思考・判断】

- (3) 自ら考え、課題を設定し、現代社会が抱える諸問題への解決方法について考察できる。

##### 【関心・意欲・態度】

- (4) 心のケアや生活支援に関心を持ち、主体的に学習に取り組む態度を持っている。
- (5) 自分自身の心のありかたを分析し、対人援助に役立てる意欲を持っている。

##### 【技能・表現】

- (6) 自分の考えを表現し、他者と調整できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- (7) 対人援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、地域住民が心豊かに暮らすことに貢献できる。

#### ○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

##### 【教育内容】

- (1) 心理学・精神保健福祉学の修得に向けた準備のため、基礎教育科目としては大学での学び方を身に付ける基礎教育セミナー、語学、情報機器操作、現代生活と諸関連領域を含めた教養科目を

学んでいく。加えて発展科目としては他学科の専門的な科目を履修することにより、人を取り巻く様々な環境について理解を深め、心の支援の実践に活かすための学びを深めていく。

- (2) 就業力養成科目においては、専門的知識を援用した自身のキャリア形成のための自己探究やコミュニケーションのスキルを学んでいく。
- (3) 専門科目においては、心理学に関するものとして、公認心理師国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを含む基礎から応用にいたる心理学の幅広い分野における講義・演習科目により、心についての理解を深めるとともに、「心の支援」に携わるためのカウンセリングの知識とスキルを修得していく。精神保健福祉学に関するものとしては、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを通して、「生活と人との関係への支援」のための基礎的知識と実践に結び付けるための体験的知識を修得していく。
- (4) 3年次以降では、専門演習において本学科で修得した知識と能力を応用し、研究的思考により発展させ、卒業研究において専門的な学びの総括を行う。

#### 【教育方法】

- (1) 1年次よりゼミ担任制をとり、学生の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くための指導を行っている。
- (2) 主体的な学びを促進するため、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。
- (3) 専門性を高めるために、基礎的理論の理解に基づいた上で心の探究に関する研究方法や、心の支援を実践するための方法について理解を深めるための演習的な講義を展開している。
- (4) 学内外における実習により、心の支援に携わるための実践力を身に付ける。
- (5) 専門演習・卒業研究においては各自のテーマに基づき主体的に文献検索を行い、得られた成果のプレゼンテーションとディスカッションを経て研究としてまとめていく。

#### 【教育評価】

- (1) 各科目において設定された到達目標の達成については、設定された方法に基づき、講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断し評価を行う。
- (2) 最終年次には、大学での学びを総括する取り組みである卒業研究において研究成果を提出物ならびに口頭発表によって示す。

#### ○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
- (3) 心理学や精神保健福祉学に関する社会的な諸問題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。
- (4) 入学後の修学に必要なとされる、コミュニケーション力、及び、主体性をもって学ぶ姿勢を持っている。
- (5) 自分自身の心、自分を取り巻く他者の心、そして人と人とのかかわり合いについて理解を深める意欲を持っている。
- (6) 心理学・精神保健福祉学の専門知識に基づき、人間理解と対人援助に力を注ぐための実践能力を身に付ける意欲を持っている。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)】	
知識・理解	(1) 豊かな人間性と社会人としての幅広い教養を身に付けている。
	(2) 対人援助に関する基礎的知識を身に付けている。
思考・判断	(3) 自ら考え、課題を設定し、現代社会が抱える諸問題への解決方法について考察できる。
	(4) 心のケアや生活支援に関心を持ち、主体的に学習に取り組む態度を持っている。
関心・意欲・態度	(5) 自分自身の心のありかたを分析し、対人援助に役立てる意欲を持っている。
	(6) 自分の考えを表現し、他者と調整できるコミュニケーション能力を身につけている。
技能・表現	(7) 対人援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、地域住民が心豊かに暮らすことに貢献できる。

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
全学共通科目								
1	基礎教育セミナーⅠ	○	○					
2	基礎教育セミナーⅡ	○	○					
3	日本語表現	○						
4	数学入門	○						
5	情報機器操作Ⅰ	○						
6	情報機器操作Ⅱ	○						
7	健康体育(実技を含む)	○						
8	英語コミュニケーションⅠ	○						
9	英語コミュニケーションⅡ	○						
10	英語(中級)	○						
11	英語(上級)	○						
12	韓国語	○						
13	中国語	○						
14	ドイツ語	○						
15	フランス語	○						
16	スペイン語	○						
17	現代生活と政治・経済	○	○					
18	現代生活と法律	○	○					
19	現代生活と福祉	○	○	○	○			
20	現代生活と芸術	○	○					
21	現代生活と教育	○	○					
22	現代生活と心と体	○	○	○	○			
23	現代生活と物理	○	○					
24	現代生活と地球	○	○					
25	現代生活と環境科学	○	○					
26	北海道の文化	○	○					
27	日本国憲法	○						
28	情報社会及び情報倫理	○	○					
29	情報処理(中級)	○						
30	情報処理(上級)	○						
31	キャリアデザインⅠ	○					○	
32	キャリアデザインⅡ	○					○	
33	キャリアデザインⅢ	○					○	
34	キャリア演習Ⅰ	○					○	
35	キャリア演習Ⅱ	○					○	
36	キャリア演習Ⅲ	○					○	
37	キャリア演習Ⅳ	○					○	
38	就業力特別講義Ⅰ	○					○	
39	就業力特別講義Ⅱ	○					○	
40	インターンシップ	○					○	
発展科目								
41	スポーツ栄養学	○						
42	スポーツマーケティング	○						
43	高齢社会の街づくり	○	○	○	○			
44	高齢者福祉	○	○	○	○			
45	生活の中の介護福祉	○	○	○	○			
46	生涯学習支援論Ⅰ	○						
47	生涯学習支援論Ⅱ	○						
48	社会教育経営論Ⅰ	○						
49	社会教育経営論Ⅱ	○						
50	社会教育課題研究	○	○				○	
51	社会教育実習	○	○				○	
52	音楽概論	○						
53	音楽鑑賞法	○						
54	音楽史	○						
55	美術史	○						
56	ファッションデザイン概論	○						
57	インテリアデザイン	○						

	科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
58	ユニバーサルデザイン	○						
学部共通科目								
59	教育文化学	○	○					
60	芸術と心理学	○	○		○	○		
61	生涯学習概論Ⅰ	○						
62	生涯学習概論Ⅱ	○						
63	メディアデザイン概論	○						
64	心理学的支援法	○	○	○	○			○
65	青少年学習コーチング論	○						
66	リカレント教育論	○						
学科専門科目								
67	心理学概論	○	○	○			○	○
68	教育心理学概論(教育・学校心理学)		○	○	○	○	○	○
69	健康・医療心理学	○	○	○	○	○		
70	人間関係の心理学	○	○	○				
71	乳幼児心理学		○	○	○	○	○	○
72	福祉心理学	○	○	○	○	○		
73	育児支援の心理学	○	○	○	○	○	○	○
74	高齢者心理学	○		○	○	○		
75	青年心理学		○	○	○	○	○	○
76	知覚・認知心理学		○					
77	学習心理学(学習・言語心理学Ⅰ)	○		○				
78	コミュニケーション心理学(学習・言語心理学Ⅱ)	○		○	○	○	○	○
79	感情・人格心理学	○	○	○		○	○	○
80	生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ)		○					
81	神経心理学(神経・生理心理学Ⅱ)		○					
82	社会心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	○	○	○		○		
83	家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)	○	○	○	○	○	○	○
84	発達心理学	○	○	○	○	○	○	○
85	障害者・障害児心理学		○	○	○	○	○	○
86	司法・犯罪心理学	○	○	○	○	○	○	○
87	産業・組織心理学	○	○	○	○	○	○	○
88	臨床心理学概論		○	○	○	○	○	○
89	ポジティブ心理学	○	○	○	○	○	○	○
90	モチベーション心理学	○	○	○	○	○	○	○
91	心理的アセスメント		○	○	○	○	○	○
92	心理学基礎演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
93	心理学基礎演習Ⅱ	○	○	○			○	
94	心理学統計法	○		○	○	○		
95	心理学実験			○	○	○		
96	心理学研究法	○	○	○	○	○	○	○
97	臨床心理援助技法論Ⅰ(精神分析療法)		○		○	○	○	○
98	臨床心理援助技法論Ⅱ(認知行動療法)		○		○	○	○	○
99	臨床心理援助技法論Ⅲ(ブリーフ・セラピー)		○		○	○	○	○
100	心理演習		○		○	○	○	○
101	心理実習		○		○	○	○	○
102	スクールカウンセリング		○	○	○	○		○
103	生命倫理学	○		○				
104	公認心理師の職責		○	○	○	○	○	○
105	関係行政論	○		○	○	○	○	○
106	医学概論(人体の構造と機能及び疾病)	○	○					
107	医学知識	○	○					
108	社会学	○	○	○				
109	社会学と社会システム	○	○	○				
110	社会福祉の原理と政策Ⅰ	○	○	○				
111	社会福祉の原理と政策Ⅱ	○	○	○				
112	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	○	○	○	○			
113	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	○	○	○	○			○
114	社会保障論Ⅰ	○	○	○				

	科目名	ディプロマ・ポリシー								科目名	ディプロマ・ポリシー						
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
115	社会保障論Ⅱ	○	○	○					131	精神保健福祉制度論		○	○	○			
116	障害者福祉	○	○	○	○	○	○	○	132	精神保健福祉援助演習（基礎）	○	○	○	○	○	○	
117	権利擁護と成年後見制度	○	○	○	○			○	133	精神保健福祉援助演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○
118	司法福祉論	○	○	○	○	○	○	○	134	精神保健福祉援助演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○
119	社会福祉調査の基礎	○	○	○					135	精神保健福祉援助演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○
120	精神医学Ⅰ（精神疾患とその治療Ⅰ）	○	○	○					136	精神保健福祉援助実習指導	○	○	○	○	○	○	○
121	精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）	○	○	○					137	精神保健福祉援助実習	○	○	○	○	○	○	○
122	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	○	○	○	○				138	社会福祉学（応用）		○	○	○			
123	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	○	○	○	○				139	精神保健福祉学（応用）		○	○	○	○	○	○
124	ソーシャルワークの基盤と専門職	○	○	○	○				140	就業力特別演習	○	○		○	○	○	
125	精神保健福祉の原理	○	○	○	○				141	専門演習Ⅰ		○	○	○	○	○	
126	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	142	専門演習Ⅱ		○	○	○	○	○	○
127	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	143	卒業研究		○	○	○	○	○	○
128	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	外国人留学生科目								
129	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	144	日本語	○						
130	精神障害リハビリテーション論		○	○	○	○	○	○	145	現代日本の文化	○						

### <取得可能な免許・資格>

心理カウンセリング学科において取得可能な資格は、以下のとおりです。

免許・資格名	資格区分	認定団体等	取得方法
公認心理師国家試験受験資格*	国家資格	厚生労働省・文部科学省	受験資格
精神保健福祉士国家試験受験資格	国家資格	公益財団法人社会福祉振興・試験センター	受験資格
認定心理士	認定資格	公益社団法人日本心理学会	認定資格
福祉心理士	認定資格	日本福祉心理学会	認定資格
社会福祉主事任用資格	法令資格	社会福祉法（根拠法）	任用資格
社会教育主事任用資格・社会教育士	法定資格	北翔大学	任用資格
児童福祉司任用資格	法令資格	児童福祉法（根拠法）	任用資格
児童指導員任用資格	法令資格	児童福祉施設の設置及び運営に関する基準	任用資格

※卒業後に大学院進学または認定施設での実務経験が必要となります。